

文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

筑波大学・東京科学大学



「地域医療の多様なニーズにシームレスに  
対応できるオールラウンダーの養成」

令和6年度 事業報告

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

事業推進支援室

## 令和 6 年度の成果

### 1 事業運営委員会、事業推進支援室の運営

実務担当者間でのミーティングを週 1 回～月 1 回の頻度で実施し、関係各部署との調整や本事業を推進するための活動を行いました。加えて、主幹校・連携校間でも 2 ヶ月に 1 回程度互いの大学にてミーティングを実施し、連携強化に向けた取り組みについて協議をしました。評価委員会の結果を踏まえて令和 7 年 3 月 1 日に第 4 回事業運営委員会を実施し、次年度の事業計画について協議を行いました。

### 2 e-learning システムの運用

令和 4 年度から 5 年度にかけて構築した全国ポストコロナ GP e-learning システム(T-COME; Tsukuba Community-Based Medicine E-learning System)を、令和 6 年 7 月 15 日に公開し、各大学の教員および学生が利用できるようにしました。筑波大学を除く 8 大学および 1 拠点が共同利用をしており、各大学が順次コンテンツをアップロードしているところです。令和 7 年度末時点で、全国の医学生が閲覧できる動画は、筑波大学:51 動画、琉球大学:20 動画、黒潮医療人養成拠点:1 動画(各大学の学生の限定公開となっている動画はさらに 13 動画)がアップロードされています。また、T-COME から千葉大学・東邦大学のオンデマンドコンテンツの該当サイトにアクセスできるようにしています。

### 3 教育プログラム・コースの開発・実施・改良

本事業では、ポストコロナ時代における「地域医療の多様なニーズにシームレスに対応できるオールラウンダー」を養成するために、地域医療においてニーズの高い横断的な領域として、①地域医療、②総合診療、③緩和医療、④感染症、⑤難病・慢性診療、⑥救急医療の 6 領域に関する体系的な教育を取り入れています。具体的には、連携する筑波大学・東京科学大学において、これらの領域に関係する診療科・部門がそれぞれの強みを生かしつつ協力して、10 種類の教育プログラム・コースを導入しています。以下に各プログラム・コースの今年度の主な実施内容と成果を記載しています。

#### ①「地域医療(プライマリ・ケア)学修プログラム」(筑波大学)

3 年次を対象とした地域ヘルスプロモーションでは、若い世代のメンタルヘルス問題、子供の運動不足、高齢期のフレイル・低栄養などの社会問題に合わせてコースのテーマおよび内容をバージョンアップし、全てのコースで医学生全員が地域住民に対する健康教育などの実習を行うことができました。また、3 年次を対象とした東京理科大学薬学部と合同で職種間連携のために必要なスキルを学ぶケア・コロキウムコースでは、コロナ禍以降オンラインのみの実施になっていたところを対面とオンラインのハイブリッドでの実施とし、より交流が深められる体制としました。1-4 年次の希望する学生を対象とした「研究室演習」では 8 名が受講し、年間を通して地域医療の実習や各自が興味のあるプライマリ・ケア分野の研究に取り組み、令和 6 年度に学生による学会発表を 4 演題行い、(第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で 3 演題、第 3 回日本地域医療学会で 1 演題)、そのうち 2 演題では受賞も果たしました(第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で優秀発表賞;テーマ「大学病院総合診療科初心患者における抑うつと自殺念慮の有病率の検討」、第 3 回日本地域医療学会で最優秀賞;テーマ「学生が医療者・行政・住民と協働して医療課題に向き合うことの意義 ～地方創生医師団×神栖～」)。その後もさらに精力的に活動続け、令和 7 年 6 月に開催予定の第 16 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会では活動報告と研究を合わせて合計 8 演題採択されています。

また教員側も精力的に学会での活動報告を行い、令和 6 年 6 月に開催された第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会では新たに保健所と大学が協同して立ち上げた水戸市での地域医療実習についての報告を、令和 6 年 8 月に開催された第 56 回医学教育学会では地域医療実習で印象に残ったことを絵で表現し共有する SEI(Significant Event Illustration)の取り組みの成果について発表しました。

## <「地域医療(プライマリ・ケア)学修プログラム」発展編>

東京科学大学の学生が茨城県の地域医療を学ぶ実習を令和6年度中に2回シリーズで開催することができました。シリーズ第1弾は「茨城実習旅」と題し、夏休み期間中の1泊2日の神栖での訪問診療等の地域実習を企画しました。シリーズ第2弾では「茨城地域医療体験合宿」と題し、筑波大学の学生と共に、週末に茨城県常陸太田市でグループワークやケースカンファ等の実習を行いました。シリーズ第1弾の神栖市での実習は1-4年生の5名が参加し、神栖市特有の地域医療の課題や訪問診療でのコミュニケーション等について学ぶ機会となったようでした。シリーズ第2弾の常陸太田地域医療体験合宿では1-5年次の21名(筑波大学16名、東京科学大学5名)が参加し、訪問診療VR体験、学年別ワーク、ケースカンファなどを行いました。全体を通して満足度は5段階中全員が4以上(うち76%は5/5、24%が4/5)と高く、「地域医療への興味は増しましたか」の質問にも全員が5段階中3以上(うち、57%が5/5、24%が4/5、19%が3/5)の評価でした。自由記述では「ワークやVR訪問診療体験を通して、自分がやりたい医療が地域医療だと再確認できた」「地域医療といえば過疎地の医療と近いものとも考えることもあるが、その意味でなく、患者の居場所としての地域で医療にはどのようなニーズがあるか考えさせられた」などの意見がありました。また、2大学合同開催、学年も多様だったことで、「多学年や他大学の人と話す機会がないためとてもよい機会となった。」という意見も伺えました。各実習の案内チラシは以下の通りです。



**東京医科歯科大学の学生さん**  
**茨城実習旅**  
 東京駅からバスで1時間半  
 夏休みに茨城県神栖市で1泊2日の  
**地域実習**してみませんか？

**日程**  
 ①8月14日(水)-15日(木) ②8月20日(火)-21日(水)  
 ③8月28日(水)-29日(木) ④9月2日(月)-3日(火)  
 ※2024年7月31日(水)を締め切りいたします。  
 ※上記以外の日程をご希望の場合は、ご相談ください。

**神栖市1泊2日実習スケジュール一例**

| 1日目   |             | 2日目   |                   |
|-------|-------------|-------|-------------------|
| 10:00 | 集合          | 9:00  | 集合                |
| 10:30 | 訪問診療(高齢者中心) | 9:30  | 訪問診療(医療的ケア緩和ケア中心) |
| 12:00 | 昼休み         | 12:00 | 昼休み               |
| 13:00 | 訪問看護同行実習    | 13:00 | 医療相談室(医療的ケアワーク実習) |
| 16:30 | 解散          | 16:00 | 指導医とのまとめ          |
|       |             | 16:30 | 解散                |

**外来・病棟・救急・在宅・まちづくり  
まるごと総合診療を学べます！**

※他、訪問診療・訪問看護・地域医療連携室／  
地域包括支援センター・内科診療会なども実習可能です。

他にも茨城県内の以下の施設で実習が可能です  
 ・北茨城市民病院附属家庭医療センター(北茨城市)  
 ・大森医院(常陸太田市)  
 ・ひたち太田家庭医療診療所(常陸太田市)  
 ・大和クリニック(桜川市)  
 ・笠間市立病院(笠間市)  
 ・セントラル総合クリニック(年久市)  
 ・利根町国民診療所(利根町)  
 詳しくはこちら

※無医村での循環診療の実習も可能です

(問い合わせ先)  
 筑波大学 ポストコロナ事業事務局  
 postcorona@md.tsukuba.ac.jp  
 028-853-3101

お申し込みはこちら  
 ※2024年7月31日(水)を締め切りいたします。



**筑波大学×東京医科歯科大学**  
**茨城**  
**地域医療体験合宿**  
 地域を知り、感じることを楽しむ！

**日程：2024年11月16日(土)13時～2024年11月17日(日)12時予定**

医療過疎地だからこそ連携が充実している常陸太田市を主な舞台として、  
 筑波大学・東京医科歯科大学の医学生(1～6年生)を対象に1泊2日で地域医療を学びます。  
 地域医療を知り、実践する力を身につけるため、特選えみの里でのワークや訪問診療のVR体験、  
 泊まり込みでの地実療の症例の共有、ケースカンファレンスを行います！  
 施設の入所者、職員との対話、診療、訪問診療VR体験を通して、地域医療を実践する力を身に付けよう！

**地域医療体験合宿スケジュール一例**

| 1日目   |                                                                                             | 2日目   |                |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------|
| 13:00 | オリエンテーション                                                                                   | 9:00  | 訪問診療VR体験       |
|       | 選択制グループワーク<br>※学年に考慮した複数の課題から選択<br>13:30<br>①えみの里を知る<br>②えみの里を通して地域医療を知る<br>③地域で役に立つ身体診療を学ぶ | 10:15 | 訪問診療グループワーク+発表 |
|       |                                                                                             | 12:00 | 解散             |
| 19:00 | 夕食+地域医療ケース共有                                                                                |       |                |

近くには電神大吊橋や袋田の滝など、  
 名所がたくさん！  
 実習後は観光を楽しんでください！

**えみの里**  
 茨城県

※自車・つくば駅の往復交通費と1泊宿泊費は  
 東京医科歯科大学にて負担。  
 ※つくば駅まで来ていただければ、筑波大学の  
 関係者が車で送迎までお運びします。

**お申し込みはこちら**  
 定員に達した時点で申し込みは  
 締め切らせていただきます。

(問い合わせ先)  
 筑波大学 ポストコロナ事業事務局  
 postcorona@md.tsukuba.ac.jp  
 029-853-3101

## ② 「総合診療学修プログラム」(筑波大学)

オンデマンド教材の開発を進め、地域医療学修プログラムのオンデマンド教材と併せて合計 21 コマ開発し、実習期間に学生が学修できるようにしました。また、昨年度から開講した、全国の医学生が参加できる月 1 回のオンラインプログラムである「総合診療塾」は、今年度はより実践的な臨床推論や身体診察、common disease などのテーマを取り上げ、昨年度を上回る参加人数を達成することができました。各回のテーマと参加人数、終了後のアンケート結果は以下の通りです。

### 【総合診療塾各回のテーマ、参加人数、満足度一覧】

| No.  | 開催日時      | 講師      | 内容                   | 参加人数 | 満足度    |
|------|-----------|---------|----------------------|------|--------|
| 第1回  | 4月24日(水)  | 前野哲博先生  | 総合診療／家庭医療とは          | 35   | 100.0% |
| 第2回  | 5月14日(火)  | 橋本恵太郎先生 | 身体診察概論               | 51   | 100.0% |
| 第3回  | 6月14日(金)  | 孫 瑜先生   | 臨床推論の基本的な考え方(風邪編)    | 26   | 100.0% |
| 第4回  | 7月23日(火)  | 橋本恵太郎先生 | バイタルサイン              | 37   | 100.0% |
| 第5回  | 9月 3日(火)  | 大西恵理子先生 | 緩和ケアにおけるコミュニケーション    | 40   | 75.0%  |
| 第6回  | 11月11日(月) | 木村紀志先生  | 臨床推論の基本的な考え方(めまい編)   | 16   | 100.0% |
| 第7回  | 12月10日(火) | 鈴木将玄先生  | プライマリケアでみる糖尿病        | 15   | 100.0% |
| 第8回  | 1月17日(金)  | 孫 瑜先生   | 臨床推論の基本的な考え方(しびれ編)   | 13   | 100.0% |
| 第9回  | 2月18日(火)  | 橋本恵太郎先生 | 感染症診療の基本+誤嚥性肺炎       | 20   | 100.0% |
| 第10回 | 3月17日(月)  | 前野哲博先生  | 臨床推論の基本的な考え方(全身倦怠感編) | 20   | 100.0% |

### ＜「総合診療学修プログラム」発展編＞

本事業担当教員である橋本恵太郎先生が顧問を務める「プライマリ・ケア研究会」にて定期的に臨床推論、身体診察や超音波の勉強会を開催し、2年生～6年生の13名前が各回に参加しました。また、普段の学修の成果を発揮する場として群星沖縄臨床研修センター主催の臨床推論大会「第4回全国医学部臨床推論甲子園-オンライン・夏-」(医学生3名1チームで参加し、臨床推論力を競う大会)に参加し、全29チームが参加する中で優勝、準優勝をすることができました。さらに、メンバーを変えて参加した「第5回全国医学部臨床推論甲子園-オンライン・冬-」(全30チームが参加)でも5年生チームが見事優勝することができました。

## ③ 「地域緩和医療学修プログラム」(筑波大学)

昨年度から新規に開講した5年次の選択クリニカル・クラークシップ(2週間)のコースで今年度も13名が履修しました。e-learningで時間と場所を問わずに学修できるように令和5年度に作成したオンデマンドコンテンツ(合計9コマ)を活用した実習を行いました。2023年10月～2024年5月に履修した学生13名へのアンケートによれば、実習内容への満足度(平均点4.7/5点満点)、目標の達成度(平均点4.4/5点満点)、指導の適切性(平均点4.6/5点満点)、実習の有用性(平均点4.7/5点満点)、後輩への推奨度(平均点4.3/5点満点)といずれも全般的な評価は高く、実習場所ごと、並びに学修項目ごとの評価も同様に良好でした。履修した学生へのインタビューでは、実習での学びとして「緩和ケアの実際を知り、前向きで身近なものにイメージが変化した」「患者の希望を叶えるケアが行われていることを体験した」「患者との向き合い方が変わった」「患者の価値観に触れ、大切にしていくことを学んだ」「医療者の配慮や真摯な姿勢が求められることを学んだ」などの意見が抽出されました。また、以前から東京科学大学の緩和ケア部門と、教育の質の向上と経験交流を目的に年3回定期的に情報交換と教材の共有を行っていましたが、今年度からの取り組みとして、医学生・研修医が緩和ケアをについて学ぶ機会を提供するために、筑波大学・東京科学大学が協働して開催する「緩和ケア塾」を企画し、令和6年11月19日に第1回、令和7年3月4日(火)に、第2回東京・つくば緩和ケア塾を開催しました。筑波大学・東京科学大学の学生や研修医が参加し、活発な議論が行われました。

④「緊急時初期対応学修プログラム」(筑波大学)

このプログラムでは、救急診療科クリニカル・クラークシップにおいて、超音波シミュレーターによる外傷初期診療のスクリーニングとしての FAST(Focused Assessment with Sonography for Trauma)の実演を外傷初期診療講義とあわせて全員に実施しています。多くの学生にとって初めて超音波機器を使用する機会となっており、スクリーニング検査として緊急時にポイントを定めてエコーを行う必要性を学んだだけでなく、解剖学の理解も深まりました。

⑤「災害時初動と BCP 学修プログラム」(筑波大学)

昨年度から開講された講座であり、今年度も 4 年次を対象とした BCP に関するアドバンスセミナー(1 日(5 コマ)の選択科目)と 3 年次を対象とした災害発生時のトリアージに関する演習(必修科目、合計 2 コマ)を実施しました。4 年次を対象とした BCP に関するアドバンスセミナーは 10 名が履修しました。終了後のアンケートでは高い満足度、理解度を示しており、全員が後輩への受講を勧めていました。3 年次を対象とした、災害発生時のトリアージに関する演習(必修科目、合計 2 コマ)でも、「トリアージ訓練で、多数傷病者への対応を実際に経験することができて有意義な時間となった」「非常におもしろい実習で、特にトリアージは実戦的で面白かった」「実際に体験して、救急現場でのチームワーク、役割分担が非常に大切だと思った」等多くの好意的な感想が寄せられました。

⑥「地域における感染症対応学修プログラム」(筑波大学)

今年度は、1 年次を対象とした手指衛生実習に加え、感染対策現場への回診実習を追加しました。また、4 年次に向けても各微生物薬適正使用に関する講義を追加しました。令和 4 年度より東京科学大学と共同で動画作成を進めており、これまでに作成した 30 の動画資料を各学年への講義に活用しました。さらに、6 年次の選択クリニカル・クラークシップにおいても外来での感染症診療や予防接種の実習を取り入れることで実習内容を充実させ、27 名が受講しました。

⑦「地域医療実践力養成セミナー」(筑波大学・東京科学大学)

昨年度から毎年 12 月に実施される修学生の集い(地域枠の医学生や卒業生が始まり、卒業生による症例発表やセミナー等を行う集い)において地域医療実践力養成セミナーを実施しており、今年度も同様の形で、東京科学大学の山脇正永先生による多職種連携に関するレクチャーを実施しました。当日は 10 大学から 48 名の学生が参加しました。満足度は 5 段階評価のうち 4 以上が 8 割超を占め(27.1%が 5/5、56.3%が 4/5)、満足した理由については、「具体的なデータが示され分かりやすかった」、「チーム医療の実態について、今まで以上の知識がついた」、「多職種連携を具体的に知ることができた」などの肯定的な感想を多く得られました。

⑧「地域医療における感染症診療・感染制御の実践的学修プログラム」(東京科学大学)

今年度は 4 年次を対象とした臨床実習前の感染対策教育(必修)にて本事業で作成した動画を使用し、実習を少人数制にするなど、感染対策の手技を確実に習得できるよう講義・実習を全面的に見直しました。また、5 年次を対象とした臨床実習(必修、1 週間)、6 年次を対象とした臨床実習(選択、4 週間)においても、本事業で開発した動画を活用した教育を実施しました。6 年生の選択実習は 25 名が受講し、学生評価の平均値は、5 年次臨床実習では、4 点満点で 3.4 点、6 年次臨床実習では、4 点満点で 3.9 点と高い評価が得られました。

⑨「地域医療における難病診療学修プログラム」(東京科学大学)

今年度は総合診療・地域医療ブロック(3 年次、必修)及び選択地域医療学修プログラム(6 年次、選択)で慢性期難病に関する学修を実施しました。また、難病慢性期診療を VR で追体験できるよう、教材作成を進め、神経難病の在宅医療、全身診察法、医療面接についての e-learning コンテンツを作成しました。「摂食嚥下口腔ケア診療学修プログラム」と併せて実際に 1 年次の授業で使用し、視線分析データ等から、学生は療養環境よりも患者の状況により集中していることが明らかとなりました。この学修について、学生からは高い学修満足度と今後の活用を期待する声が上がリ、100%の学生が「在宅医療の学修体験を高め、新しい知識を自分に提供した」、89%の学生が「在宅



医療の現場を違和感なく見渡すことができた」、87%の学生が「もっと多くの医療教育用 VR 動画教材を見たい」と回答しました。在宅医療に関する VR 教材を用いた学修効果については令和 6 年度 8 月に開催された第 56 回医学教育学会で東京科学大学の教員が発表を行いました。

⑩ 「地域医療における多職種連携(嚥下障害・口腔ケア診療)学修プログラム」(東京科学大学)

令和 5 年度より導入された新カリキュラムに、摂食嚥下口腔ケアに関する事項を追加し実施しました。具体的には歯学部学生と合同で実施する実習である多職種連携Ⅰ(1 年次、必修)、多職種連携Ⅱ(3 年次、必修)、チーム医療入門(6 年次、必修)、総合診療・地域医療ブロック(3 年次、必修)及び選択地域医療学修プログラム(6 年次、選択)での歯科領域も含む学修を実施しました。また、摂食嚥下口腔ケア診療を VR で追体験できるよう、摂食嚥下リハビリテーションに関する在宅医療についての e-learning コンテンツを作成し、VR コンテンツを授業で活用しました。

#### 4 オンデマンド教材の作成・改良

各プログラム・コース内で引き続きオンデマンド教材の作成を進めました。具体的には「地域医療学修プログラム」「総合診療学修プログラム」内で「EBM」「産業医」「家族志向ケア」「身体診察」「高齢者のケア」「障がい者支援」や各種症候学に関するオンデマンド教材を 21 コマ分作成し、実習中に学生が学修できるようにした他、昨年度までの動画と併せて T-COME にアップロードしました。筑波大学の「地域における感染症対応学修プログラム」と東京医科歯科大学の「地域医療における感染症診療・感染制御の実践的学修プログラム」は共同または各大学独自で、合計 30 コマ分の動画を作成し、授業や実習内で活用しました。

東京科学大学では「地域医療における難病診療学修プログラム」と「地域医療における多職種連携学修プログラム(嚥下障害・口腔ケア診療)」において、神経難病の在宅医療、全身診察法、医療面接、医科歯科及び他職種で実施する在宅医療等についての 5 シナリオの VR コンテンツを作成し、授業で用いました。

#### 5 サイトビジットの実施

各教育プログラム・コースをより充実させるために、学生実習を受け入れている県内の施設への視察、および先進的な取り組みを行っている他大学・医療施設への調査・見学ならびに情報交換も積極的に行いました。筑波大学総合診療科の選択クリニカル・クラークシップでは北海道から沖縄まで約 90 の医療施設の中で学生が希望する施設で実習をさせていただいているため、県外の医療施設への視察は学生を受け入れていただいている施設へのお礼、そして学生実習の内容の確認なども兼ねています。今年度はあおぞら診療所、ほーむけあクリニック等へのサイトビジットを行ったことで、新たに選択クリニカル・クラークシップで実習可能な施設を増やすことができました。また、昨年度までに引き続き、他のポストコロナ GP 拠点へも積極的にサイトビジットやシンポジウムの参加を行い意見交換することで、拠点間連携の推進や当プログラムの充実につなげられるようにしました。視察件数は県内:2 件・県外:11 件、シンポジウムへの参加は 2 件を実施しました。県外の視察およびシンポジウム参加施設一覧は以下の通りです。

【県外の視察施設一覧(シンポジウム参加を含む)】

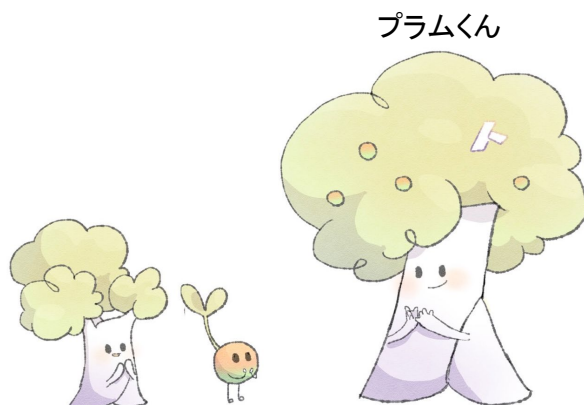
| 視察日              | 視察者                           | 視察先                                                        |
|------------------|-------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 6月9日(日)～10日(月)   | 鈴木 将玄先生                       | すけがやファミリークリニック @静岡                                         |
| 6月11日(火)         | 前野 哲博先生<br>橋本 恵太郎先生           | 千葉大学医学部、千葉大学附属病院 @千葉                                       |
| 7月3日(水)～4日(木)    | 堀内明由美先生                       | 新潟大学医学部 @新潟                                                |
| 7月6日(土)          | 鈴木 将玄先生<br>小曾根 早知子先生          | 名古屋大学(医師・人類学者がともに考える人類学教育ワークショップ) @愛知                      |
| 9月8日(日)～10(日)    | 橋本 恵太郎先生<br>孫 瑜先生             | 弘前大学 @青森                                                   |
| 9月12日            | 小曾根 早知子先生                     | 亀田ファミリークリニック @千葉                                           |
| 11月2日(土)         | 前野 哲博先生                       | 【シンポジウム】医療現場の理想的なチームビルディングのための卒前・後・生涯教育シンポジウム2024AKITA @秋田 |
| 11月11日(月)～12日(火) | 後藤 亮平先生                       | JA岐阜厚生連久美愛厚生病院、飛騨高山大学連携センター、ゴーアヘッドワークス、高山市役所 @岐阜           |
| 12月10日(火)        | 孫 瑜先生                         | 【シンポジウム】地域と暮らしを支える医療人の育成シンポジウム @長崎 ※オンライン参加                |
| 12月12日(木)～14日(土) | 久野 遥加先生                       | 本輪西ファミリークリニック @北海道                                         |
| 1月24日(金)         | 前野 哲博先生<br>阪本 直人先生<br>濱田 修平先生 | 県立総合医療センター、和田巡回診療所、徳地診療所、周南市鹿野診療所 @山口                      |
| 1月30日(木)～31日(金)  | 孫 瑜先生                         | 名古屋大学 @愛知                                                  |
| 2月2日(日)～3日(月)    | 孫 瑜先生                         | 市立恵那病院 @岐阜                                                 |

これまでの他のポストコロナ GP 採択拠点へのサイトビジットの成果として、地域医療に興味のある地域卒受験者増加を目的とした高校生向けセミナー(宮崎大学・長崎大学)や、学生の意見を取り入れたプログラムの改良(高知大学)を本事業にも取り入れています。また、千葉大学へのサイトビジットの際には千葉大学が多く作成し公開しているオンデマンド教材を T-COME に掲載させていただくことについて協議し、実現させることができました。

また、令和7年2月28日に岡山大学、3月10日に弘前大学から筑波大学にサイトビジットに来られました。情報交換や意見交換を行い、今後の拠点間連携などの可能性についても協議を行いました。

## 6 ホームページ等での情報発信、シンポジウム(事業成果報告会)の開催

本事業に関して情報発信をするために HP や SNS での発信も積極的に行いました。令和 6 年 10 月に東京医科歯科大学が東京科学大学へ変更になったのをきっかけに、SNS での発信は facebook から、より学生など若年者での使用が多い Instagram へと切り替えました。また、より親しみをもってもらうために「プラムくん」というイメージキャラクターも作成しました。



また、昨年度と同様に、茨城県の県立高校の医学部進学コースに通う高校生を対象として令和 6 年 3 月 2 日につくば国際会議場にてシンポジウム(事業成果報告会)を開催しました。当日は 77 名が参加し、アンケート結果では、シンポジウム全体を通して高い満足度が得られ、特に学生による発表では 94%が 5 段階中 4 以上の評価という結果でした。自由記述では、「データと共に、現状の茨城の医療の問題について知ることができ、より一層自分が地域のために活躍したいと思えるようになった。」「今まではただ漠然と医学部に進学して医師になりたいと思うだけだったが、今回先生や学生の皆さんの話を聞いて、それがより具体的・現実的になったし、自分の意思や目的もより明確になった。」などの意見が寄せられました。

## 7 事業評価委員会の開催

本事業を定期的にモニタリングして次の改善につなげるとともに、外部評価委員を含む評価委員会を開催して、事業の妥当性、進捗状況、効果などについての評価を行うため、令和 7 年 2 月 14 日に外部評価委員による評価委員会を開催しました。事業の妥当性、進捗状況、効果などについて評価を受けた内容を令和 7 年 3 月 1 日の事業運営委員会で共有し、今後の改善につなげるようにしました。

## 8 主幹校・連携校間の定期打ち合わせの実施、茨城県地域医療支援センターとの協議

今年度より、筑波大学と東京科学大学の連携をさらに深めるために、2 か月に 1 回程度、互いの大学にて定期ミーティングを実施しました。令和 6 年 7 月 5 日の定期ミーティングは筑波大学学生の地域医療実習のフィールドである茨城県神栖市で行い、その後、東京科学大学の学生が茨城県の地域医療を学ぶ実習を令和 6 年度中に 2 回シリーズで開催することができました。また、令和 7 年 3 月には茨城県の地域医療実習では経験機会の少ない小児の在宅医療について学べるよう、筑波大学学生が東京科学大学の関連施設である「あおぞら診療所」で実習する枠組みを新たに設定しました。

診療科単位でも連携を深め、今年度は両大学の緩和ケア科が協働し、2 大学の学生や研修医を対象とした「東京・つくば緩和ケア塾」の第 1 回目と第 2 回目をオンラインで開催することができました。